

令和7年度 まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

開催日時	令和7年10月20日（月）	10時30分～11時30分
開催場所	半田市役所 大会議室	
会議次第	【議題】 基本目標3「若い世代に選ばれる「まち」をつくる」 ①所管課長説明 ②質疑 ③評価	
出席委員	（委員長）鈴木委員長 （委員）中村委員、福井委員、河治委員、福田委員、 山本委員 （欠席）松山委員、岩橋委員、林委員	
事務局	企画課長、企画課（山田・中村）	
出席職員	市民協働課長、市民協働課主幹、国保年金課長、子ども育成課長、 子育て相談課長、幼児保育課長、都市計画課長、市街地整備課長、 学校教育課長	
議事概要		
①所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明（企画課長）	
②質疑	【委員】 評価表を見るに、働きながら子育てをするための支援として様々な取組を行っていることが分かる。半田市において共働き等、働きながら子育てを行う世帯は増えているのか。 【子ども育成課長】 明確な数値等は手元にないが、例えば、放課後児童クラブ（学童保育）の利用者は毎年増加している。物価高騰等による家計への影響により、働きに始める方もいると聞いている。 【幼児保育課長】 市内の保育園について、時期によっては待機児童が発生している。これは0歳児及び1歳児クラスの入所児童数が利用定員を上回っているためであり、就業等により保育のニーズが高まっているためであると考えられる。 【子ども育成課長】 本市の「はたらく親を応援するまち」の取組の一つとして、クラシティ3階の子育て支援センターでは、生後6か月から就学前までの子どもの一時預かりを行っている。令和6年度から保育士を1名増員し、利用者の増加にも対応できるよう受入体制を強化している。 【子育て相談課長】 働く親支援の後方支援となるが、妊娠、出産、子育ての各段階における子育て支援の取組として、女性の妊娠や健康管理に役立つアプリ「ルナルナ」の有料コースの無償提供、不妊治療費の助成、母子手帳アプリ	

「母子モ」を活用した情報配信等を行っている。また、子ども成長に合わせた支援を行えるよう、保育園や放課後児童クラブ等との情報共有を図っている。

【委員】

出産前の段階にある方たちへの支援について、こういった取組を行っているか、また行う予定があるか。

【子育て相談課長】

「ルナルナ」の有料コースの無償提供は、令和7年4月から提供を開始して半年で利用が1,300件を超えている。ルナルナは、女性の健康管理に関する情報を提供できるほか、妊娠を希望する方が排卵予測日等を把握できる機能もあるため、出産前の支援として有効なサービスであるといえる。

【委員】

必ずしもすべての女性が妊娠を望んでいるわけではないが、女性の健康管理に関する情報全般も提供可能なサービスであり、良い支援であると思う。

また、半田市にはこうした様々な支援があり、安心して子育てができる環境があるということを、女性だけでなく、男性に向けても周知していけるとよい。

【委員】

小学校敷地内における早朝及び放課後の子どもの居場所の開設・受入れの新たな取組について、これは何時から何時まで利用可能であるか。また、人員等の受入体制はどのようなになっているか。

【子ども育成課長】

放課後の子ども居場所として、令和7年度より横川小学校の中に「放課後ひろば」を開設した。また、令和8年度には亀崎小学校敷地内において同様の施設を開設する予定である。小学校の敷地外にある放課後児童クラブ（学童保育）の利用にあたっては、児童が一度学校敷地外に出たからクラブを訪れる必要がある。一方で、小学校の敷地内に子どもたちの居場所を整備することにより、授業終了後に敷地外に出ることなくそのまま安全に過ごせる場を提供できるようになるという利点がある。

利用時間について、平日は授業終了後から最終下校時刻まで利用可能である。また、土曜日、学校代休日、長期休業期間は、9時から12時までと13時から最終下校時刻まで利用可能である。早朝の受入れは事業開始前であり、利用開始時間は現段階ではまだ公表していない。

なお、各小学校の方針として、小学1年生等は、児童が自宅まで安全に帰宅する集団下校の練習も必要であるため、一度帰宅してから再度施設を訪れてもらう対応をとる場合もある。

受入体制としては、大人の見守り人員が2名で対応をしている。放課後ひろばの運営が始まっている横川小学校には、別途、学校内に放課後児童クラブも入っている。その放課後児童クラブの法人が放課後ひろば

の事業も担っており、施設を運営している。

【委員】

KPI「学校が楽しいと回答している児童生徒の割合」について、ここ数年の実績がわずかではあるが低下している。これが低下している要因や改善する方策はあるか。

【学校教育課長】

KPIの実績値の推移として、令和5年度までおおむね横ばいであると認識しており、令和6年度のみ前年度から2ポイント程度低下した状況である。（R2:88.2%→R3:88.7%→R4:88.8%→R5:88.4%→R6:86.0%）

学校生活が楽しいかどうかというのは、様々な要因で構成されており、本指標はそれらを総合して児童がどう感じているかを示している。そのため、令和6年度のみを取り上げて2ポイント低下の要因を現段階で分析することは難しい。今後も数値が低下し続けるような傾向が見られた場合には原因を究明する必要があるが、現段階では数値の揺れとして不要であると考えている。

【委員】

子育て支援等の施策も充実していると感じられる。他の自治体と比較した施策展開についてどう考えているか。

【企画課長】

人口移動（社会増減）について、知多地域では南部の自治体は人口減少が著しく、一方で北部には人口が増加している自治体もある。現状として、近隣市町との競争という側面はあるものの、本質的に目指すべきあり方ではない。中心市街地の活性化を始めとして、雇用創出等を進めることにより、知多地域全体の魅力を高め、その中で本市の求心力を高めていくという方向性が重要であると考えている。

【委員】

KPI「理想とする子どもの人数がいるまたは持つ予定である若い世代（女性）の割合」について、市民アンケートの設問はどのような文言であるか。

【事務局】

市民アンケートの設問は、「あなたは、理想とする人数のお子さんを持つことができましたか、または、今後持つことができそうですか」となっている。

【委員】

全国の自治体が様々な子育て支援の施策を行っている。それらを見るに、子育てをする親への支援という側面が強いように感じられた。別の方向性として、子どもに選ばれるようなまちという視点で考えたときに、また良いアイデアが出てくるかもしれない。

また、先ほどの議論でもあったとおり、近隣の自治体との競争、人口

	<p>の取り合いをしても本質的には意味がない。やはり知多地域全体での特長や魅力を活かした施策やPRを考えていけるとよいと感じた。</p>
③評価	<p>【委員】 B評価。 様々な施策を行っているが、ターゲットである若い世代に対してPRがあまりできていないように感じられる。</p> <p>【委員】 B評価。 全体として未達成の指標が多いが、そもそも難易度の高い課題が多く、また新たな取組も進めてはいる。</p> <p>【委員】 B評価。 様々な取組を進めているにも関わらず未達成の指標が多く、取組が成果につながっていないことは残念である。しかし、これらの取組を行わなかった場合には、さらに「選ばれないまち」になってしまうと想定される。全体として非常に難しい現状にあると感じられた。</p> <p>【委員】 B評価。 全体として未達成の指標が多いが、一方で、切れ目のない子育て支援等の様々な取組を進められている。</p> <p>【委員】 B評価。 未達成の指標は多いが、新規事業を含めて様々な取組を進められている。</p> <p>【委員】 B評価。 様々な支援を手厚く実施できている。前提として、そもそも基本目標3は、成果が現れるのに時間がかかり、また、取組が成果に直結しにくい事業分野であると思う。</p> <p>全体としての評価は、B評価。</p>